

トドマツ精油塗布マスクを用いた花粉症症状への緩和効果に関するモニターアンケート調査

○王 青躍（埼玉大・理工研）、金子 俊彦（日本かおり研究所）

【はじめに】

スギ花粉症はくしゃみ、鼻水、鼻づまり、目のかゆみなどの症状を有するアレルギー疾患であり、国内の罹患人口は1980年代から年々増加傾向にあり、最も罹患人口の多い疾患の1つとなっており、その対応策は急務である。当研究室では、過去研究においてトドマツ精油を用いたスギ花粉アレルゲンの活性変化を調査し、アレルギー性抑制の可能性を見出している。しかしながら今まで、トドマツ精油を実際に使用した場合の花粉症軽減効果有無については全く研究が行われていない。そこで、トドマツ精油を塗布したマスクを使用した際の花粉症への緩和効果について、モニターによるアンケート調査を行い、その効果がどの程度認められるかについて調べることを試みた。

【方法】

花粉飛散期に鼻水、くしゃみなどのいわゆる花粉症の症状を有するものの、通院や薬(目薬を含む)の服用をしていない方を対象者とした。ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)にて機縁募集により、20歳以上の男女約100名の応募者から無作為抽選によって、51名に調査対象者として依頼した。個人差があるので、各対象者の判断により花粉症症状を発症してからモニターを開始し、ステップ①~④で花粉症症状についてアンケートに日々記録して調査を実施した。① 調査開始日~7日後：何も処理を行っていないマスクを使用した。② 8日目~14日後：トドマツ精油を配合したスティック剤をマスク表面(外側)に塗布し、それを使用する。モニター開始直後(実験開始から9日目以降)に対象者全員に体調などについて確認した。③ 15日目~21日後：何も処理を行っていないマスクを使用した。④ 21日目~28日後(調査終了日)：トドマツ精油を配合したスティック剤をマスク表面(外側)に塗布し、それを使用した。調査終了後、各対象者の記録を集計し、処理を行っていないマスクの場合とトドマツ精油スティックを塗布したマスクの場合で、花粉症の症状がどう変わるか調べ、緩和効果の有無について個人情報保護に留意して解析した。また、花粉の飛散と花粉症の症状の出方についても調査した。

【結果・考察】

図1に示したように、20代から80代の全ての対象者の花粉症症状を0-5の六段階評価(0:無症状、1:一番軽い症状~5:一番強い症状)に記録した。トドマツ精油塗布マスクを用いた場合、対象者の花粉症症状が抑制された効果を明らかにされた。また精油塗布なしの場合、個別対象者の花粉症状の出方がやや激しく、その変動は精油塗布マスクを用いた場合に比べ約1.5倍程度であった。

【参考】王青躍ら,日本花粉学会第56回大会要旨集, B-06, p.15 (2015).

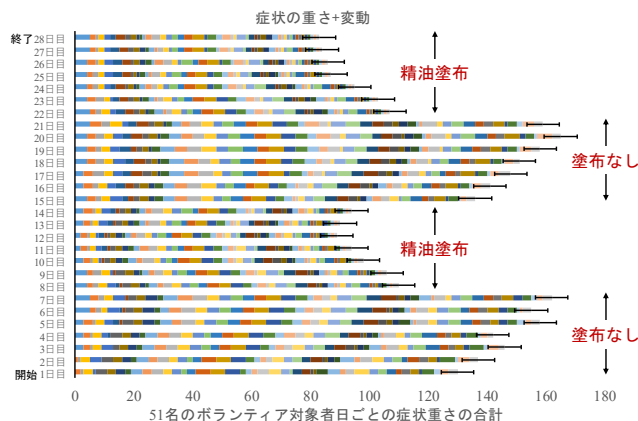


図1 モニターアンケート調査によるトドマツ精油塗布マスクを用いた対象者の花粉症症状への緩和効果の結果